

2023 年度一般選抜入試・出題のねらいと対策

本学の一般選抜入試では、法学部で学ぼうという意欲を持つ皆さんに考えてほしいテーマをもとに問題をつくっています。今年度は昨年度に続き「民主主義」を大きなテーマとして、「英語」・「国語」・「公民」・「小論文」を出題しました。出題のねらいと対策について、それぞれの出題に関わった教員からのコメントをまとめましたので、参考にしてください。

1. 一般選抜入試でどのような能力を測りたいか（出題の構成とねらい）

①英語

今回は「民主主義」とりわけ、その生成・発展をテーマとする出題をしました。本試験問題では、出題文の内容を精確に理解し、そのうえで受験者が私見を的確に構築することができるかを測ることを主たる狙いとしています。また、これと併せて、高校までに学習している基本的な英文法理解、文意を捉え精確に和訳する力を測ることもねらいとしています。

また、今回の入試問題では、英語力のみならず、民主主義の生成・発展といった歴史や政治に関する観点について基礎的なことが理解できているかについても問われています。そこでたとえば問 5 では、精確に和訳をするための(世界史や現代史、政治、公民等の社会科学科目の)基本知識が確実に身につけているかも測るねらいがあります。さらに、問 6 でも、英語力にくわえて、政治や世界史に関する基礎的理解を踏まえる必要があるでしょう。このように、本試験問題では、英語力に加えて、歴史、政治、公民等について、基礎的な理解ができているか、ということもはかるねらいがあります。

②国語

民主主義を考える上での「理性的な態度」について論じている文章を取り上げました。まず漢字の読み書きおよび、語句の意味についてです(問一～三)。あえて紛らわしいものを出題していますが、いずれも通常よく用いられるものであり、ぜひ確実に身につけておいてほしいというものばかりを選んでいきます。内容については、もちろん一文ごとの意味を把握することは大切ですが、それとともに、文と文の関わりや、文章全体をどう理解すべきか、筆者はどのようなことを主張しているのかを考えてほしいというものです(問四～六)。

③公民

「民主主義」というテーマに関連して、大問 1 では人権、大問 2 では自衛隊の現状を取り上げました。公民科及び時事問題に関する基本的な知識の確認を主なねらいとしており、大半の設問は択一式としました。内容については、大問 1 では日本国憲法について条文を中心に取り上げ(問 1～5、9)、さらに各分野における権利保障についての理解を問いました

(問 6～8、10・11)。大問 2 は、本学のある千葉県木更津市には自衛隊駐屯地があり、本学志願者は公務員志望者が多いことから、特別職国家公務員である自衛官に注目して出題しました。教科書的な内容が大半ですが、論点となっている集団的自衛権についての理解や(問 8)、時事的な事柄を取り上げて新聞やニュースなどに目を向けているかについても問いました(問 9)。

④小論文

「民主主義」の基本理念である「平等」に対して、「卓越」を追求する教育の在り方を投げかけることによって、「平等」について改めて考えてもらうことをねらいとしました。平等が同じであることを重視するものとするれば、卓越は異なることを目指す考え方です。一見矛盾するようにも見える両者について、学校教育というみなさん自身が身を置く場を題材とすることで、自分自身に引きつけて考えてほしいと考えています。

2. 一般選抜入試に向けてどのように学習・対策をするか (アドバイス)

①英語

英語力に関する面としては、まず、授業で使用している英語教科書の内容を、精確に理解できるようにしておいてください。また、各種参考書なども参照して、単語・イディオム・構文等の文法理解を継続的に深める取り組みをすると良いでしょう。さらに、試験では精確な和訳をすることも求められますので、英文和訳を練習するにあたり、日頃から、その英文・英単語に対応するより適切な日本語が何であるか、を常に意識しておくことも学びの助けになると思われます。

今回の入試問題では、歴史的に見た、民主主義の生成・発展に関する理解が問われています。そこで、このような出題があり得ることを想定し、普段から、歴史、政治、公民等に関して(そして、もちろんこれらの科目等に加えて、高校までに学ぶあらゆる授業科目についても)、普段から、より一層関心をもって取り組むという姿勢が重要だといえます。

②国語

学習には特効薬があるわけではありません。普段の生活や高等学校の学習の中での地道な積み重ね、そこでどれだけ文字や言葉に敏感でいるか、どれだけ厳密に言葉や文章を捉え、それについて考えるか、ということが大切です。言葉や漢字について、多くの人はわかっている、読める、書けるつもりになりがちです。遠回りに思えるかもしれませんが、一瞬不安に思ったそのときに、辞書などで確認することが、確実な知識として蓄積される方法です。また、文章を一つ一つ丁寧に、厳密に解釈するとともに、その文章全体で何を言わんとしているのか考える、という癖をつけることができるとよいでしょう。

③公民

公民科は高校によって履修科目が異なることから、出題については基本的に現代社会履修者でも政治・経済履修者でも対応できるように配慮しています。法学部で学ぶための基礎として、高校での公民科の学習や時事問題への関心は重要です。対策としては、日頃の授業を大切にして知識を積み重ねることと、新聞やニュースに触れて時事問題への関心を高め自分で調べる習慣を身につけることを挙げます。大学の学びではそのようにして獲得した知識を活用する場面が数多くありますので、今できる学習を大切にしましょう。

④小論文

小論文は高校でも継続的に書く機会があるかと思いますが、実際に書いて読んでいただき、そのコメントをもとにさらに練り上げていくことを繰り返すことで上達していきます。小論文には読み手がいますので、読み手に伝えることを意識して書くようにしましょう。また、小論文の対策を進める中で、一定の時間の中で書き上げる練習も大切です。

内容面については、本学では法学部志望者としての意欲を確認し、自らの考えを表現してもらうために小論文を実施していますので、時事問題を含めて現代社会の課題に目を向けることが大切です。いまはみなさんが持っているスマホなどでも新聞やニュースを見ることができます。まずタイトルを眺めて、いま何が起きているのかを知りましょう。そして気になった記事を読んでみて、自分の考えをまとめたり話し合ったりしてみてください。知識を身につけ活用することで、あなたの小論文はより説得力あるものとなるはずです。

以上